

平成21年度元気な地域づくり交付金の事後評価結果について

(沖縄総合事務局)

| 都道府県 | 市町村 | 計画主体 | 地区名 | 事業メニュー名 | 事業内容 | 計画期間 | 事業実施期間 | 目標 (成果指標) | 達成率(%) | 評価結果 | | | 備 考 |
|------|------|------|---------------------------|--|--|---------|---------------------------|---|--|---|--|---|-----|
| | | | | | | | | | | 計画主体 | 沖縄県 | 沖縄総合事務局 | |
| 沖縄県 | 宜野座村 | 宜野座村 | 宜野座村全域 城原地区 宜野座第3地区 | ・遊休農地再生産活動実践スタート支援 ・遊休農地活用土地条件整備 ・基盤整備促進 | ①遊休農地の実態調査等 ②客土・障害物の除去等 ③農道(舗装) L=31m | H17～H20 | H17～H19 H17～H19 H17 | ①遊休農地の解消等の面積(16.0ha) ②遊休農地の解消面積(2.42ha) ③農業用用排水施設等の機能の確保(6.2ha) ④馬鈴薯の栽培面積(25.0ha) ⑤沖縄自動車道にかかる宜野座村管理の農道に対する耐震補強対策の実施(100%) | ①43.0ha 268% ②2.42ha 100% ③6.2ha 100% ④5.0ha 20% ⑤100% | ①本事業で遊休農地の実態調査等を実施することにより、遊休農地の解消が図られた。 ②本事業により荒地の客土、障害物の除去により遊休農地の解消が図られた。 ③⑤本事業により、農道橋の耐震補強(農業用用排水施設等)の整備がなされ、農道の機能が確保されるとともに災害時の被害を最小限に抑え、安全な農道が確保された。 ④運作障害の影響により馬鈴薯の栽培面積の目標達成が出来なかつた。 栽培面積拡大を図るため、関係機関と連携し就農促進及び農地斡旋等を推進していく必要がある。 また、改善計画を策定し目標達成に向けて推進しているところである。 | ①本事業により遊休農地の面積等を調査し、詳細に把握出来たことにより、他事業を活用し遊休農地の解消が図られた。 ②本事業により遊休農地の解消を図り、有効活用が図られた。 ③⑤本事業により、農業生産の維持及び農業経営の安定を確保するための安全な農道が整備された。 ④本事業により、当該地区全体における遊休農地の解消が図られたが、運作障害の影響を受け、馬鈴薯の栽培面積の目標達成が出来なかつた。 栽培面積拡大を図るため、関係機関との連携を更に強化し、就農促進及び農地斡旋等を図る必要がある。 | ・青枯病などの土壌病害による連作障害の発生やさとうきび等他作物への転換、はれいしょ生産農家の高齢化等により、目標どおりの作付けができず指標の一部が未達成となつた。 今後は沖縄県と連携し改善計画に基づき、指標が達成されるよう計画主体に対し指導を図る。 ・農道橋の耐震補強により通作路や農産物の運搬路としての農道の機能が維持され、農業生産の維持及び農業経営の安定が図られた。 | |
| 沖縄県 | 渡名喜村 | 渡名喜村 | 渡名喜第4地区 | 基盤整備促進 | 農道(舗装) L=1,566m | H18～H20 | H19～H20 | ①農業用用排水施設等の整備・保全により条件整備され、機能が確保された農地の増加面積(7.2ha) ②維持管理費の節減(12円/m ² /年) | ①7.2ha 100% ②0円/m ² /年 100% | 本事業により農道のアスファルト舗装がなされ、農作物の荷痛み防止及び品質の向上が図られた。 | 本事業により農道のアスファルト舗装がなされ、農作物の荷痛み防止や粉塵被害の防止が図られ、農産物の品質向上と付加価値の高い作物への転換が可能となつた。 | 農道のアスファルト舗装により農産物の荷痛み防止、粉塵被害の軽減が図られたことから農産物の品質が向上し、高生産性農業の促進につながっている。 | |
| 沖縄県 | 今帰仁村 | 今帰仁村 | 今帰仁第1地区 | 基盤整備促進 | 農道(舗装) L=1,032m | H18～H20 | H18～H19 | ①農業用用排水施設等の整備・保全により条件整備され、機能が確保された農地の増加面積(16.2ha) ②整備された施設に対する満足度の割合(80%) | ①16.2ha 100% ②82% 100% | 本事業により農道のアスファルト舗装がなされ、農作物の荷痛みや粉塵被害の防止が図られ、品質の向上、営農意欲の向上にもつながつた。 | 本事業により農道のアスファルト舗装がなされ、農作物の荷痛みや粉塵被害の軽減が図られ、品質向上及び営農意欲向上につながつた。 | 農道のアスファルト舗装により農産物の荷痛み防止、粉塵被害の軽減が図られたことから農産物の品質が向上し、高生産性農業の促進につながっている。 | |
| 沖縄県 | 読谷村 | 読谷村 | 読谷第8地区 読谷第9地区 | 基盤整備促進 | 農道(舗装) L=3,402m | H18～H20 | H18～H20 | ①農業用用排水施設等の整備・保全により条件整備され、機能が確保された農地の増加面積(37.2ha) ②維持管理費の節減額(12円/m ² /年) | ①37.2ha 100% ②0円/m ² /年 100% | 本事業により農道のアスファルト舗装がなされ、農作物の荷痛みや粉塵被害の防止が図られた。 | 本事業により農道のアスファルト舗装がなされ、農産物の荷痛み防止や粉塵被害の軽減が図られたことから、農産物の品質向上及び付加価値の高い作物への転換が可能となつた。 | 農道のアスファルト舗装により農産物の荷痛み防止、粉塵被害の軽減が図られたことから農産物の品質が向上し、高生産性農業の促進につながっている。 | |

平成21年度元気な地域づくり交付金の事後評価結果について

(沖縄総合事務局)

| 都道府県 | 市町村 | 計画主体 | 地区名 | 事業メニュー名 | 事業内容 | 計画期間 | 事業実施期間 | 目標 (成果指標) | 達成率(%) | 評価結果 | | | 備 考 |
|------|------|------|----------|---|---|---------|---------|--|-------------------------------------|---|---|---|-----|
| | | | | | | | | | | 計画主体 | 沖縄県 | 沖縄総合事務局 | |
| 沖縄県 | 豊見城市 | 豊見城市 | 鏡波第1地区 | 基盤整備促進 | 農道(舗装) L=417m | H18～H20 | H18 | ①農業用排水施設等の整備・保全により条件整備され、機能が確保された農地の増加面積(19.7ha) ②農作業時間の短縮(906ha/年) | ①19.7ha 100% ②906ha/年 100% | 本事業により、農道のアスファルト舗装がなされ、農作物の荷痛みや粉塵被害が解消され、運搬作業の効率化及び農業の近代化が促進され、安定した経営ができる農地面積の確保が図られた。 | 本事業により農道のアスファルト舗装がなされ、農作物の荷痛み防止や粉塵被害の軽減が図られ、運搬作業の効率化及び農産物の品質向上により、安定した農業経営の可能な農地面積の確保が図られた。 | 農道のアスファルト舗装により農産物の荷痛み防止、粉塵被害の軽減が図られたことから農産物の品質が向上し、高生産性農業の促進につながっている。 | |
| 沖縄県 | 南城市 | 南城市 | 大里第15地区 | 基盤整備促進 | 農道(舗装) L=1,254m | H18～H20 | H18～H19 | ①農業用排水施設等の整備・保全により条件整備され、機能が確保された農地の増加面積(8.2ha) ②農作業時間の短縮(355hr) | ①8.2ha 100% ②355hr 100% | 本事業により農道のアスファルト舗装がなされ、走行時間の短縮、維持管理費の節減、粉塵の減少等、生産環境が改善され、生産意欲が向上した。 | 本事業により農道のアスファルト舗装がなされ、農産物の荷痛み防止や粉塵被害の軽減が図られ、農産物の品質向上及び農業経営の安定化を図るとともに維持管理費の節減にもつながった。 | 農道のアスファルト舗装により農産物の荷痛み防止、粉塵被害の軽減が図られたことから農産物の品質が向上し、高生産性農業の促進につながっている。 | |
| 沖縄県 | 南風原町 | 南風原町 | 南風原第8地区 | 基盤整備促進 | 農道(舗装) L=1,432m | H18～H20 | H18 | ①農業用排水施設等の整備・保全により条件整備され、機能が確保された農地の増加面積(10.6ha) ②農作業時間の短縮(2249hr) | ①10.6ha 100% ②2249hr 100% | 本事業により、農道のアスファルト舗装がなされ、路盤材流出による排水路のつまりが無くなり、ほ場の耕土が流れなくなつた。また粉塵被害が解消され、農作物の品質向上が図られた。 | 本事業により農道のアスファルト舗装がなされ、農産物の荷痛み防止や粉塵被害の防止等が図られ、農産物の品質向上及び通作時間の短縮により、農家の営農意欲の向上が図られた。 | 農道のアスファルト舗装により農産物の荷痛み防止、粉塵被害の軽減が図られたことから農産物の品質が向上し、高生産性農業の促進につながっている。 | |
| 沖縄県 | 八重瀬町 | 八重瀬町 | 東風平第10地区 | 基盤整備促進 | 農道(舗装) L=561m | H18～H20 | H18 | ①農業用排水施設等の整備・保全により条件整備され、機能が確保された農地の増加面積(8.3ha) ②農作業時間の短縮(81hr) | ①8.3ha 100% ②81hr 100% | 本事業により農道のアスファルト舗装がなされ、農村環境及び農地基盤の近代化が図られ、農家の生産意欲を高め農業所得の向上に繋がり、高生産の農業を促進した。 | 本事業により農道のアスファルト舗装がなされ、農産物の荷痛み防止や粉塵被害の軽減が図られ、農産物の品質向上及び農業所得の向上により、高生産農業の促進につながった。 | 農道のアスファルト舗装により農産物の荷痛み防止、粉塵被害の軽減が図られたことから農産物の品質が向上し、高生産性農業の促進につながっている。 | |
| 沖縄県 | 宮古島市 | 宮古島市 | 平良地区 | ・農業生産施設整備 (高生産性農業用機械施設) ・山村振興等地域再生の連携推進 | 機械一式 ・ハーベスター ・ブルスター・マルチローテーター ・マルチ回収機 ・農用運搬機 ・格納庫 栽培技術研修等 | H18～H20 | H18～H19 | 地域産物の販売額の増加率 123.9%(目標額23,510千円) | 7,606千円 -22.65% | 台風の襲来により目標年度の販売額を達成できなかつた。 販路の再確立等により、生産者拡大による生産意欲の向上を専一層図つてい必要がある。 また、改善計画を策定し指標達成に向け推進しているところである。 | 地域全体への農家所得向上に波及効果があつたものの指標を達成しておらず、栽培計画どおりの作付けを行い機械の効果的利活用を図る必要があり、地域における薬用作物等新たな品目を含め、ウコンの計画的生産及び販売対策を更に強化する必要がある。 | 19年に来襲した台風の影響により、茎の倒伏や葉片の折損等の被害が発生し、ウコンの生長(根茎)に影響が生じたことから、目標どおりの販売ができず指標が未達成となつた。 今後は沖縄県と連携し改善計画に基づき、指標が達成されるよう計画主体に対し指導を図る。 | |
| 沖縄県 | 竹富町 | 竹富町 | 竹富第13地区 | 基盤整備促進 | 農道(舗装) L=967m | H18～H20 | H18 | ①農業用排水施設等の整備・保全により条件整備され、機能が確保された農地の増加面積(82.4ha) ②維持管理費の節減額(10,171千円/年) | ①82.4ha 100% ②- | 本事業により、農道のアスファルト舗装がなされ、農耕車の走行、農作物・家畜の運搬等が安全で効率的に行えるようになつた。 | 本事業により農道のアスファルト舗装がなされ、農産物の荷痛み防止や粉塵被害の防止等が図られ、農産物の品質向上及び付加価値の高い作物への転換が可能となつた。 | 農道のアスファルト舗装により農産物の荷痛み防止、粉塵被害の軽減が図られたことから農産物の品質が向上し、高生産性農業の促進につながっている。 | |

平成21年度元気な地域づくり交付金の事後評価結果について

(沖縄総合事務局)

| 都道府県 | 市町村 | 計画主体 | 地区名 | 事業メニュー名 | 事業内容 | 計画期間 | 事業実施期間 | 目標 (成果指標) | 達成率(%) | 評価結果 | | | 備 考 |
|------|------|------|---------|---------|----------------------|---------|---------|---|---------------------------------|--|---|---|-----|
| | | | | | | | | | | 計画主体 | 沖縄県 | 沖縄総合事務局 | |
| 沖縄県 | 名護市 | 名護市 | 名護第4地区 | 基盤整備促進 | 農道(舗装) L=1,650m | H18~H20 | H19~H20 | ①農業用用排水施設等の整備・保全により条件整備され、機能が確保された農地の増加面積(9.8ha) ②整備された施設に対する満足度の割合(75%) | ①9.8ha 100% ②93% 129% | 本事業により農道のアスファルト舗装がなされ、農作物の荷痛みや粉塵被害の防止が図られ、農産物の品質向上や維持管理費の節減につながった。 | 本事業により農道のアスファルト舗装がなされ、農作物の荷痛み防止や粉塵被害の軽減及び維持管理費の節減が図られた。 | 農道のアスファルト舗装により農産物の荷痛み防止、粉塵被害の軽減が図られたことから農産物の品質が向上し、高生産性農業の促進につながっている。 | |
| 沖縄県 | 渡嘉敷村 | 渡嘉敷村 | 渡嘉敷第3地区 | 基盤整備促進 | 貯水池 1基 畑かん(8.9ha) | H17~H20 | H17~H20 | ①農業用用排水施設等の整備・保全により条件整備され、機能が確保された農地の増加面積(8.9ha) ②農業生産基盤の整備率(100%) | ①8.9ha 100% ②100% 100% | 本事業により農業生産基盤整備がなされ、効率的な農業経営の実現に向けた取り組みが実施でき、新規就農者の確保が可能となった。 | 本事業により農業生産基盤整備がなされ、生産性の向上と農業経営の安定を図るとともに効率的な農業経営の実現に向けた取り組みが実施でき、担い手の集積及び新規就農者の確保が可能となった。 | 貯水池の改修による安定的な農業用水の確保と末端農業用水施設の整備による計画的な水利用が可能となったことにより、安定した農業経営が可能となった。 | |